

【家電製品】ウイルスを抑制する可能性は高いが優先順位はほかより低め

高性能フィルターやイオンで空気中のウイルスを抑制する家電も売れている。特に人気が高いのは両機能を備えた加湿空気清浄機。最近ではイオン発生機能だけのものも増えてきた。イオンの種類などは各社で違うが、原理的にはさほど差はない。

感染防止の最終結論

空気中のウイルス抑制は、人が集まる密室では必要となるが、まだ感染者が出ていない家庭では、飛沫・接触感染でウイルスを持ち込まない対策のほうが重要。優先順位は低めだ

加湿空気清浄機

空気清浄とイオン発生でのウイルス抑制機能に、加湿機能を加えたタイプ。乾燥するとインフルエンザウイルスは活発になるといわれているため、加湿機能も空気感染対策に有効だろう



プラスマクラスター
空気清浄機
KC-Y65 (シャープ)
実勢価格5万4800円

ウイルスウォッシャー機能搭載
加湿空気清浄機
ABC-VWK14B (三洋電機)
実勢価格3万4800円

プラスマクラスター
イオン発生機
IG-B100 (シャープ)
予想実売価格2万9800円

イオン発生機

イオン発生機能に特化したタイプ。すでに自宅に加湿器や空気清浄機があり、プラスαを求めたい人や、設置場所などの問題で空気清浄機の導入に踏み切れない人には、選択肢の一つになるだろう

ナノイオン発生機
F-GME15
(パナソニック)
予想実売価格2万9800円



マスク用のあめから旅行用消毒液までインフルエンザ対策の周辺グッズが急激に増加

さまざまなアイデアグッズやニッチなニーズに応えた感染対策グッズも多い。今秋になって急激に増加したのが、携行しやすい体温計や消毒液など。またマスク装着時の不快感を解消するようなアイデアグッズも支持を得ている。

パーソナル化、携帯化に対応

JTBのハンドジェルは小型の擦り込み式消毒液。「こう見えても体温計」は、色の変化で体温がわかるカード式体温計。消毒液、体温計とも今や一家に1つから、1人1つ持つ時代だ

いつでも
どこでも
ハンドジェル
(JTB法人東京)
実勢価格840円



こう見えても体温計 (販売/素数)
実勢価格525円

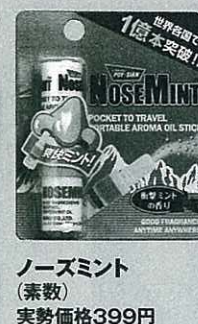


マスク装着時の不快感を解消

「NEWマスク飴」は、強力なメントール味のあめをなめることで、「ノーズミント」はメントールやミントの香りの液体をマスクに数滴垂らすことで、マスク装着時の不快感を軽減する



NEWマスク飴
(ピアンタ)
実勢価格210円



ノーズミント
(素数)
実勢価格399円

業務用品の一般利用が増加

「クレベリン」は元来、二酸化塩素を使った業務用の消臭剤。これが一般家庭でも使われ始めている。空気中のウイルスを除去するジェルタイプは特に、人気が高く売れている



クレベリンシリーズ
(大幸薬品)
実勢価格1890円 (クレベリン スプレー 300ml)、980円 (クレベリン ミニスプレー 60ml)、1980円 (クレベリン ゲル 150g)

またフリーツ式でも、今回紹介したクロシードの「抗体マスク サージカルタイプ」はサイズが大きく、あごまで覆われるので安心感があった。ただ、たとえ密着性が高くても、繰り返し使えばマスクに付着したウイルスが手に付き、接触感染の原因になる。こまめに使い捨てることも大切だ。部屋の換気を頻繁に行うことも新型コロナウイルス対策として推奨されている。空気感染の可能性は極めて低いといってもゼロではないし、飛沫がしばらく空気中を漂う可能性もある。今ではシャープのプラスマクラスターイオンのほか、パナソニックのナノイオンや三洋電機のウイルスウォッシャーなど、イオンを発生して空気中のウイルスを抑制する空気清浄機やイオン発生機なども増えている。これらはどれも、実験室の中では、ウイルスや飛沫の抑制機能がある程度確認済み。また上で紹介した空気清浄機はウイルスを通さないHEPAフィルターを搭載しており、この機能だけでもウイルス抑制には一定の効果が期待できる。ただ換気が重要になるのは、多くの人が集まる場所。一般家庭では、家族が感染していない限り、空気中にウイルスや飛沫が漂う可能性は低い。となると、まずはウイルスを家の中に持ち込まない対策を優先し、そのうえで対策の選択肢に加えるのがベストだ。最近ではほかにも、マスク装着時の不快感を軽減するグッズや、持ち運びに適した小型の体温計、消毒液なども売られている。これらを賢く使い分け、一層効果的な対抗策に役立てたい。